

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち		
施策	輝く子どもを育むまちづくり		
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成		
取り組み事項	確かな学力を育成する		
主管部局	教育委員会 学校教育課	関連部局	

めざす暮らしの姿

知・徳・体の調和のとれた人材の育成

基本方針

子どもたちが将来社会に出た時に、一人ひとりが生き抜ける力、幸せになれる力を養うために、活力ある教育環境の中で夢や志を抱き、知・徳・体のバランスのとれた、こころ豊かにたくましく育つ子どもの育成を図る。そのため、学ぶ意欲を大切に、自ら学び、考え、活用できる人材を育成するため、質の高い教育を目指す。

施策の方針

客観的な学力分析を基に、基礎基本の定着を確実にを行い、教育活動全体で読書活動をはじめ言語活動の充実のための取り組みを推進し、特別支援教育の取り組みを進める。また、外国人英語指導助手と連携した英語学習の充実やICT端末を活用したプログラミング学習を行うなど情報教育の充実を図る。

2. 事業費

(1) 歳出

単位: 人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.868	1.08	0.0	0.0
会計年度任用職員数			1.058	1.06	0.0	0.0
人件費計			7,380,621	9,814,422	0	0
事業費計			25,774,971	25,542,000	25,542,000	25,542,000
フルコスト			33,155,592	35,356,422	25,542,000	25,542,000

(2) 歳入

単位: 人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金				0	0
	県支出金				0	0
	市債				0	0
	その他				0	0
一般財源1			33,155,592	35,356,422	25,542,000	25,542,000
一般財源2			25,774,971	25,542,000	25,542,000	25,542,000

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	授業がわかると答えた児童の割合(小学校)					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値			87	87	87	87
単年度実績値			86.2			
単年度達成率	-	-	99.08%	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	授業がわかると答えた児童の割合(小学校)
前年度との比較	
所見	割合が8割以上となっており、施策の方針に沿った取り組みが推進できている。引き続き目標達成に向けて取り組みを進める。

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち		
施策	輝く子どもを育むまちづくり		
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成		
取り組み事項	豊かな心を育成する		
主管部局	教育委員会 学校教育課	関連部局	人権教育推進室

めざす暮らしの姿

知・徳・体の調和のとれた人材の育成

基本方針

子どもたちが将来社会に出た時に、一人ひとりが生き抜ける力、幸せになれる力を養うために、活力ある教育環境の中で夢や志を抱き、知・徳・体のバランスのとれた、こころ豊かにたくましく育つ子どもの育成を図ります。そのため、学ぶ意欲を大切に、自ら学び、考え、活用できる人材を育成するため、質の高い教育を目指します。

施策の方針

自然学校、トライやる・ウィークなどの体験活動を通じて心豊かな子どもを育てるとともに、道徳教育・人権教育充実の取り組みを推進する。また、総合的な学習の時間などで、地域人材を活かした幅広い体験活動を実施する。

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			1.55	2.04	0.14	0.14
会計年度任用職員数			3.1	2.1	0.0	0.0
人件費計			14,884,634	18,681,567	1,070,982	1,070,982
事業費計			13,006,263	13,270,000	10,601,000	10,601,000
フルコスト			27,890,897	31,951,567	11,671,982	11,671,982

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金				0	0
	県支出金		4,171,000	4,482,000	4,357,000	4,357,000
	市債				0	0
	その他				0	0
一般財源1			23,719,897	27,469,567	7,314,982	7,314,982
一般財源2			8,835,263	8,788,000	6,244,000	6,244,000

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(小学校)					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値			81	81	81	81
単年度実績値			80.2			
単年度達成率	-	-	99.01%	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(小学校)
前年度との比較	
所見	割合が8割以上となっており、施策の方針に沿った取り組みが推進できている。引き続き目標達成に向けて取り組みを進める。

構成事務事業の事後総合評価

事務事業名	事務事業担当者の評価 担当者所見	上位責任者の評価 方向性及び所見	総合評価
小学校体験活動事業	B:現状のまま継続 新型コロナウイルス感染症の影響により、規模の縮小などありながらも事業は実施できた。今後はコロナ禍における事業の在り方、効果的な実施方法を検討しながら、実施していきたい。	B:現状のまま継続 集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる体験など、児童の発達段階に応じた体系的な体験教育の推進を図っており、豊かな心の育成に必要なため、継続して実施する。	A
心豊かな体験活動推進事業	C:改善・見直しの上で継続 新型コロナウイルス感染症の影響により、参加事業所が減少し、希望職種を体験できなかった生徒がいたため、目標値の達成ができなかった。今後はコロナ禍での効果的な実施方法を検討し、事業所の確保を確実にしながら、事業を継続していき、様々な社会体験の機会をつくっていく。	B:現状のまま継続 トライやる・ウィーク事業等、地域人材を活かした幅広い体験学習を通じて、生徒の自尊感情、他人への思いやり、ふるさとを愛する心を醸成しており、豊かな心の育成が図れているため、継続して実施する。	B
創意ある学校園づくり推進事業	B:現状のまま継続 身近な市内学校間での合同授業や体験活動、Web会議システムを活用した交流など「多様な学びの場の創造」や、地域の伝統文化等を継承・発展させるため、世代を超えた地域での交流を図るなどの「ふるさと教育の推進」を行い、創造工夫された体系的な教育活動の推進と、ふるさとを愛し次代を担う人材の育成に貢献した。	B:現状のまま継続 校区の特色を活かした授業の実施は、豊かな心を育成するために有効と考えられるので継続する。ただし、平成26年から事業を開始し、平成29年の見直しから5年を経過した中で、ICTの活用など多様化するニーズに対応できるよう、より有効な進め方を検討していく必要がある。	A
芸術文化活動振興事業	C:改善・見直しの上で継続 事業の周知の徹底及び体制について整備を万全に行っているが、対象者がいないため、事業の実施方法を検討し、継続していく。	B:現状のまま継続 令和3年度対象者がいなかったが、児童・生徒の文化活動の振興と向上を図るために、継続して実施する。	B
人権教育事業	B:現状のまま継続 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通りの実施ができない事業もあったが、内容を変更したり代替の取り組みを実施することで、概ね予定通り進捗している。学校園の人権教育の推進に向け、情報発信、指導助言、研修の場の設定など教職員への支援を充実させる。人権教育を核にした道徳教育の系統的な推進に向け、研修を充実させる。	B:現状のまま継続 教職員に向けた人権教育の実践についての研修機会の充実や子どもの発達段階と取り巻く状況に対応した取組みの継続に努める。	A

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち		
施策	輝く子どもを育むまちづくり		
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成		
取り組み事項	健やかな体を育成する		
主管部局	教育委員会 学校教育課	関連部局	

めざす暮らしの姿

知・徳・体の調和のとれた人材の育成

基本方針

子どもたちが将来社会に出た時に、一人ひとりが生き抜ける力、幸せになれる力を養うために、活力ある教育環境の中で夢や志を抱き、知・徳・体のバランスのとれた、こころ豊かにたくましく育つ子どもの育成を図ります。そのため、学ぶ意欲を大切に、自ら学び、考え、活用できる人材を育成するため、質の高い教育を目指します。

施策の方針

健康診断、体力・運動能力調査などの結果に基づき、自ら意欲的に運動し、健康な体づくりに取り組む子どもを育てる。また、幼・小・中学校で給食を充実し、食育の推進を図り、望ましい食生活や食文化に対する意識を高める。

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			2.028	9.15	0.0	0.0
会計年度任用職員数			65.167	61.1	0.0	0.0
人件費計			105,532,473	159,488,136	0	0
事業費計			156,306,216	151,544,000	151,444,000	151,444,000
フルコスト			261,838,689	311,032,136	151,444,000	151,444,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金					0	0
県支出金			256,000	384,000	384,000	384,000
市債					0	0
その他			50,000,000	23,325,000	23,325,000	23,325,000
一般財源1			211,582,689	287,323,136	127,735,000	127,735,000
一般財源2			106,050,216	127,835,000	127,735,000	127,735,000

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	運動やスポーツが好きと答えた児童生徒の割合(小学校)					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値			93	93	93	93
単年度実績値			86.8			
単年度達成率	-	-	93.33%	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	運動やスポーツが好きと答えた児童生徒の割合(小学校)
前年度との比較	
所見	新型コロナウイルス感染症の影響により行事が縮小される中でも、割合が8割を越えており、施策の方針に沿った取り組みが推進できている。引き続き目標達成に向けて取り組みを進める。

施策評価シート

年度

3

1. 基本情報

まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち		
施策	輝く子どもを育むまちづくり		
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成		
取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る		
主管部局	教育委員会 学校教育課	関連部局	

めざす暮らしの姿

知・徳・体の調和のとれた人材の育成

基本方針

子どもたちが将来社会に出た時に、一人ひとりが生き抜ける力、幸せになれる力を養うために、活力ある教育環境の中で夢や志を抱き、知・徳・体のバランスのとれた、こころ豊かにたくましく育つ子どもの育成を図ります。そのため、学ぶ意欲を大切に、自ら学び、考え、活用できる人材を育成するため、質の高い教育を目指します。

施策の方針

分かる授業や子ども一人ひとりの持ち味を活かす教育を推進するため、体系的かつ継続的な教員研修を実施し、教職員の資質実践的指導力の向上を図る。また、幼・小・中学校、家庭及び地域、それぞれのつながりを活かした小中一貫教育を進める。

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			1.704	2.08	0.0	0.0
会計年度任用職員数			32.775	33.84	0.0	0.0
人件費計			57,718,630	65,476,408	0	0
事業費計			86,073,122	13,169,000	6,374,000	6,374,000
フルコスト			143,791,752	78,645,408	6,374,000	6,374,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		882,000		0	0
	県支出金		1,314,380	386,000	356,000	356,000
	市債				0	0
	その他		8,953,040		0	0
一般財源1			132,642,332	78,259,408	6,018,000	6,018,000
一般財源2			74,923,702	12,783,000	6,018,000	6,018,000

3. 成果指標

(1) 成果指標

指標名	わかりやすい授業の実現のため研究・工夫に取り組んでいると答えた教職員の割合(小学校)					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単年度目標値			83	83	83	83
単年度実績値			82			
単年度達成率	-	-	98.79%	-	-	-

(2) 施策成果指標の結果に対する所見

成果指標	わかりやすい授業の実現のため研究・工夫に取り組んでいると答えた教職員の割合(小学校)
前年度との比較	
所見	割合が8割以上となっており、施策の方針に沿った取り組みが推進できている。引き続き目標達成に向けて取り組みを進める。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102010001	事務事業名	外国人英語指導助手招致事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	確かな学力を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	生徒の英語の理解力、表現力等の向上を図るとともに、異文化について理解を深める。		
対象	中学校生徒		
目的	グローバル化の親展する社会で活躍できるよう、語学力やコミュニケーション能力を育成し、主体性、創造性、チャレンジ精神、リーダーシップ及び異文化に対する理解を深め、英語力の向上を図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.12	0.22	0.0	0.0
会計年度任用職員数			1.042	1.04	0.0	0.0
人件費計			2,281,749	3,206,236	0	0
事業費計			2,002,641	1,384,000	1,384,000	1,384,000
フルコスト			4,284,390	4,590,236	1,384,000	1,384,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			4,284,390	4,590,236	1,384,000	1,384,000
事業費計ー特定財源			2,002,641	1,384,000	1,384,000	1,384,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】英検3級相当以上の英語力を有する中学3年生の割合					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			60	60	60	60
単年度実績値			61.4			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	102.33%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1						
単位	円					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			71,406.5	76,503.9333	23,066.6667	23,066.6667
単年度実績値			69,778.3388			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	A: 妥当性が高い	グローバル社会となっていく中で、日頃からALTとコミュニケーションをとりながら英語に親しむ必要性は高い。また、中学校の学習指導要領の中で、ネイティブ・スピーカー等の協力を得て、指導体制の充実を図るとあるので、妥当性は高い。	なし
有効性	B: 比較的有効である	調査では、英語が好きであるとの回答の割合が過半数を超えており、外国人とのコミュニケーションにより英語への抵抗感が軽減されたといえる。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	市内中学校(3校)へのALTの年間配置計画を作成し、外国人指導助手の英語学習を生徒全員が過不足なく効率的に実施できている。	なし
改革・改善プラン達成度	C: 改革改善効果が低い	新型コロナウイルス感染症の影響により、来日が計画より3ヶ月ほど遅くなったため、事業改善は達成できていない。英語教諭と外国人指導助手とのチームティーチング体制を確立していきたい。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	すべての中学校生徒に対して事業実施できている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	新型コロナウイルス感染症の影響により、ALTの配置が遅れた。ALTとコミュニケーションをとる中で、意欲的に英語を用い、異文化に対する理解を深めることで、学習意欲へとつながっている。
休止・廃止となったときの影響	廃止した場合、外国語活動や外国語を通じた実践的なコミュニケーションをとる機会がなくなり、英語に対する興味や学習意欲を失うことが危惧される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	生きた英語に触れることで、生徒の語学力やコミュニケーション能力を育成するとともに、異文化に対する理解を深め、英語力の向上が図れているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102010002	事務事業名	ぐんぐん学力アップ事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	確かな学力を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	全国規模の学力調査(小学校4、5年 国語・算数、中学校1、2年 国語・数学・英語)により児童生徒の学力を分析し、課題を把握することにより授業改善に活かし、指導と評価の一体化を図る。		
対象	小中学校児童・生徒		
目的	児童生徒の学力の状況を把握し、客観的な学力の分析を基として、授業改善に活かし、学力向上につなげていく。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.168	0.21	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.008	0.01	0.0	0.0
人件費計			1,151,406	1,621,120	0	0
事業費計			858,780	901,000	901,000	901,000
フルコスト			2,010,186	2,522,120	901,000	901,000

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			2,010,186	2,522,120	901,000	901,000
事業費計ー特定財源			858,780	901,000	901,000	901,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】学習検討会議の回数					
単位	回					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			3	3	3	3
単年度実績値			3			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	100%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	検討会議1回によるフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			670,062	840,706.6667	300,333.3333	300,333.3333
単年度実績値			670,062			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	A: 妥当性が高い	小・中学校において学力検査の結果を利用し、学力を把握・分析し、児童・生徒の個々の状況に応じた学習内容を決定できた。	なし
有効性	B: 比較的有効である	中学3年生全国学力調査で全国平均を超えており、有効性は高いと考える。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	標準学力検査を利用し、児童生徒の学力の状況を把握・分析しながら、各小学校、中学校での学力向上の取り組みができています。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	標準学力検査の結果により、学力の把握、分析ができ、その学年にあった取り組みができています。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	すべての対象小、中学校児童生徒に対して事業実施できている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	標準学力検査結果により把握した学力の状況把握、分析による効果的な学習計画を図ることで、効果があった。評価と指導の一体化のために本事業は必要不可欠である。
休止・廃止となったときの影響	全国的な学力の把握ができないため、その学年の学力に応じた取り組みができなくなる。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	児童生徒の学力を分析し、課題を把握することにより授業改善に活かし、学力向上につなげているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102010003	事務事業名	英語教育推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	確かな学力を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	英語教育の円滑な実施のため、外国人英語指導講師を配置し、外国語を用いたコミュニケーション能力の素地を養いながら異文化についても学ぶ。		
対象	幼稚園、小中学校園児・児童・生徒		
目的	グローバル化の親展する社会で活躍できるよう、日々の活動の中で英語を使用することにより、語学力やコミュニケーション能力を育成し、異文化について学ぶ。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.14	0.26	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			950,117	1,988,968	0	0
事業費計			6,433,350	7,288,000	7,288,000	7,288,000
フルコスト			7,383,467	9,276,968	7,288,000	7,288,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			7,383,467	9,276,968	7,288,000	7,288,000
事業費計ー特定財源			6,433,350	7,288,000	7,288,000	7,288,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】英語を使用した行事の回数					
単位	回					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			6	5	5	5
単年度実績値			6			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	100%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	英語を使用した行事の回数1回あたりのフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			1,230,577.8333	1,855,393.6	1,457,600	1,457,600
単年度実績値			1,230,577.8333			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	グローバル社会となっていく中で、幼児期から外国語のコミュニケーション能力を育て、異文化についても理解を深めることは必要である。	なし
有効性	B: 比較的有効である	幼児期から中学校卒業までの12年間を通じ、一つながりで体系的な取り組みを行い、話す・聞くなどの実践型の生きた英語に親しみ、コミュニケーション能力を養える環境づくりを推進した。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	教育の効果を高めるために、幼稚園、小学校について同じ委託業者の講師が継続して指導にあたっている。	なし
改革・改善プラン達成度	C: 改革改善効果が低い	新型コロナウイルス感染症の影響により、英検IBAが令和2、3年度と実施できていない。今後はより受験しやすい英語検定の実施の仕方について、検討していく。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	すべての対象園児、児童、生徒に事業実施できている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	幼児期から、外国語活動や外国語に触れ合う機会や使用する機会があることで、コミュニケーション能力を育成し、異文化に対する理解を深める場を提供できている。しかし、英語検定試験の実施方法に改善の必要があるため、見直しの上、事業継続していく。
休止・廃止となったときの影響	廃止した場合、外国語活動や外国語を通じた実践的なコミュニケーションをとる機会がなくなり、英語に対する興味や学習意欲を失うことが危惧される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	幼児期から外国語に触れる機会を提供することで、英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を育成するとともに、異文化に対する理解を深め、英語力の向上が図れているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102010004	事務事業名	小学校外国語教育推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	確かな学力を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	英語教育の円滑な実施のため、外国人英語指導講師を配置し、外国語を用いたコミュニケーション能力の素地を養いながら異文化についても学ぶ。		
対象	小学校児童		
目的	グローバル化の親展する社会で活躍できるよう、低学年から外国語を用いた授業を行うことで、外国語への関心を高め、コミュニケーション能力を育成し、異文化に対する理解を深める。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.34	0.39	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.008	0.01	0.0	0.0
人件費計			2,318,694	2,998,098	0	0
事業費計			16,480,200	15,969,000	15,969,000	15,969,000
フルコスト			18,798,894	18,967,098	15,969,000	15,969,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			18,798,894	18,967,098	15,969,000	15,969,000
事業費計ー特定財源			16,480,200	15,969,000	15,969,000	15,969,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】英語が好きと感じる児童の割合					
単位	%					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			80	80	80	80
単年度実績値			92.9			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	116.12%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	英語が好きと感じる児童の割合のフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			234,986.175	237,088.725	199,612.5	199,612.5
単年度実績値			202,356.2325			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	グローバル社会となっていく中で、小学校低学年の段階から英語に親しむ必要性は高い。	なし
有効性	B: 比較的有効である	低学年から外国人指導助手の授業を受けることで、話す・聞くなどの実践的な生きた英語に親しみ、コミュニケーション能力を養える環境づくりができています。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	教育の効果を高めるため、幼稚園、小学校については同じ委託業者の講師が継続して指導にあたっている。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	幼稚園、小学校について同じ委託業者の講師が継続して指導することにより、教育の効果を高め、別業者を使用するより、費用の抑制にもなる。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	すべての小学生児童対象で事業実施している。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	小学校低学年の時期から、外国語活動や外国語を通じた実践的なコミュニケーションをとる機会があることで、英語への興味や関心を育み、異文化に対する理解を深めることができている。
休止・廃止となったときの影響	廃止した場合、外国語活動や外国語を通じた実践的なコミュニケーションをとる機会がなくなり、英語に対する興味や学習意欲を失うことが危惧される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	園児・児童の語学力やコミュニケーション能力を育成するとともに、異文化に対する理解を深め、英語力の向上が図れているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102020001	事務事業名	小学校体験活動事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	地域社会と触れあい、さまざまな体験活動をとおして、豊かな人間性や社会性を身につけ、生命を大切に する心、思いやりの心及び共生の心の育成を図る。		
対象	小学校児童3年生、5年生		
目的	集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる体験など、児童生徒の発達段階に応じ た体系的な体験教育の推進を図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.12	0.22	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			814,386	1,682,972	0	0
事業費計			6,970,000	6,630,000	6,630,000	6,630,000
フルコスト			7,784,386	8,312,972	6,630,000	6,630,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			3,061,000	3,307,000	3,307,000	3,307,000
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			4,723,386	5,005,972	3,323,000	3,323,000
事業費計ー特定財源			3,909,000	3,323,000	3,323,000	3,323,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【量】環境体験学習の実施回数					
単位	回					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			42	42	42	42
単年度実績値			40			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	95.23%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	環境体験学習1回あたりのフルコスト					
単位	円					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			185,342.5238	197,927.9048	157,857.1429	157,857.1429
単年度実績値			194,609.65			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	児童が、人や自然、地域社会と触れあい、様々な体験活動を行うことで、自分で考え問題解決する力、生命への思いやりの心を育み、生きる力を育成することができる。	なし
有効性	B: 比較的有効である	多くの児童が自然に接することにより、自立への高揚を図れ、さまざまな社会体験を得ることにより、問題解決する力が高まった。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	実施期間、場所などを慎重に検討し、計画的に行事を実施することにより、コロナウイルス感染症対策を講じた上で、適正に実施することができた。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	コロナウイルス感染症の影響により、自然学校の宿泊のみをとりやめるなど、一部の行事については見直しを行い、行事事態が中止にならないように実施した。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	全対象児童に事業実施できている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	新型コロナウイルス感染症の影響により、規模の縮小などありながらも事業は実施できた。今後もコロナ禍における事業の在り方、効果的な実施方法を検討しながら、実施していきたい。
休止・廃止となったときの影響	廃止となれば、児童が人や自然、地域社会と触れあうことがなくなり、さまざまな体験活動ができない中で、自分で考え問題解決する力、環境や生命を大切に思う心を育む機会を失うことが危惧される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる体験など、児童の発達段階に応じた体系的な体験教育の推進を図っており、豊かな心の育成に必要であるため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102020002	事務事業名	心豊かな体験活動推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	心肺蘇生法実践研修や、トライやるウィーク事業による、地域人材を活かした幅広い体験学習を通じて、自尊感情、他人への思いやり、ふるさとを愛する心を醸成する。		
対象	小中学校児童・生徒		
目的	集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる機会の提供などで体験教育の推進を図り、思いやりの心および共生の心の大切さを認識できるようにする。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.12	0.25	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			814,386	1,912,469	0	0
事業費計			1,797,680	1,971,000	1,971,000	1,971,000
フルコスト			2,612,066	3,883,469	1,971,000	1,971,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			1,050,000	1,050,000	1,050,000	1,050,000
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			1,562,066	2,833,469	921,000	921,000
事業費計ー特定財源			747,680	921,000	921,000	921,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】人のために役にたつうれしさを感じた生徒の割合					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			80	80	80	80
単年度実績値			72.3			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	90.37%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	トライやるウィークアンケート結果による充実感を感じた生徒の割合のフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			32,650.825	48,543.3625	24,637.5	24,637.5
単年度実績値			36,128.1604			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	地域社会の様々な社会探検を経験することにより、人との関係をつくる力を育成、地域の大人や親の生き方への意識の高まり、モラルなどの倫理観の育成、学ぶこと、働くことの意義の理解につながり、社会的自立を図る。	なし
有効性	B: 比較的有効である	市民の参画を協同を基盤に市民が一体となった教育の一環とし機能しており、生徒の社会体験として十分に目標達成できている。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	コロナ過においても、安全面等に考慮し、事業の実施ができた。	なし
改革・改善プラン達成度	C: 改革改善効果が低い	新型コロナウイルス感染症の影響により、参加事業所が減少したため、希望職種を体験できない生徒がでてしまった。今後はコロナ過における事業の在り方、効果的な実施方法を検討していく。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	対象児童、生徒について事業実施ができています。	なし

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	新型コロナウイルス感染症の影響により、参加事業所が減少し、希望職種を体験できなかった生徒がいたため、目標値の達成ができなかった。今後はコロナ禍での効果的な実施方法を検討し、事業所の確保を確実にしながら、事業を継続していき、様々な社会体験の機会をつくっていく。
休止・廃止となったときの影響	地域社会の様々な社会体験ができないために、自尊感情、他人への思いやり、ふるさとを愛する心を育成する機会を失うこととなる。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	トライやる・ウィーク事業等、地域人材を活かした幅広い体験学習を通じて、生徒の自尊感情、他人への思いやり、ふるさとを愛する心を醸成しており、豊かな心の育成が図れているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102020003	事務事業名	創意ある学校園づくり推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始	平成26年度	終了年度	なし
実施の概要	心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児・児童・生徒の育成を目指し、市内幼稚園、小学校、中学校のそれぞれの特色ある学校園作りを支援し、また、幼稚園から中学校までの12年間を見通した系統性・継続性のある教育を目指した「幼小中・地域まるごとつながりの中での一貫教育」(相生型小中一貫教育)の推進を目的として、中学校区単位での事業計画の立案及び実施を進める。		
対象	幼稚園、小中学校園児・児童・生徒		
目的	集団活動や地域の人々との交流、自然、社会、芸術文化に触れる体験などを通して、豊かな人間性や社会性を身に付けることを目的にしており、本事業において子どもの発達段階を踏まえ、校長のリーダーシップのもと、学校が校区の特色である伝統や文化等を教材とする地域学習を充実させ、ふるさとを愛し次代を担う人材を育てるための、創造工夫された体系的な教育活動を推進する。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.14	0.18	0.14	0.14
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			950,117	1,376,977	1,070,982	1,070,982
事業費計			2,005,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
フルコスト			2,955,117	3,376,977	3,070,982	3,070,982

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			2,955,117	3,376,977	3,070,982	3,070,982
事業費計ー特定財源			2,005,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】地域の活動や行事に参加している割合					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			70	70	71	71
単年度実績値			61.9			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	88.42%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	地域の活動や行事に参加している割合1%のコスト					
単位	円					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			42,215.9571	48,242.5286	43,253.2676	43,253.2676
単年度実績値			47,740.1777			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	子指指導要領に沿った単一的な授業を実施するだけでなく、校園長のリーダーシップのもと、校区の特色を活かした授業を実施することが、ふるさとを愛し次代を担う人材育成につながっている。今後はよりの確に児童・生徒や地域の要望の把握のため、アンケートの見直しなどを検討していく	あり
有効性	B: 比較的有效である	特色ある教育活動への積極的な取り組みを行うことで、児童・生徒が楽しく学べる学校、保護者が安心して通わせることのできる学校の具現化を図り、目標達成に向けて貢献している。しかし、市民のニーズが多様化する中で、ICTの活用などで毎年変化をつけた活動が必要になる	あり
効率性	B: 比較的効率的である	事業計画や学校規模に応じた補助を行い、学校、児童・生徒及び地域の実態や特性などを生かした特色ある教育活動を学校園単位、中学校区単位で実施した。コストについて、事業の見直しから5年が経過した中で、現在の各学校園へ補助金配当状況を精査し、現状の活動内容に応じた配当方法を考える必要がある	あり
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	各校より事業報告として成果・課題等の効果検証を実施しており、改善等検討した後、次年度の学習プランの計画策定を行っている。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	各学校から提出された事業報告書を学校間で共有することで、活動内容に対する成果や課題に対して共通認識を持ち、来年度の計画に活かされており、保護者に対しては、特色ある体験活動として活動内容を各学校が周知している。今後は、学校や保護者だけでなく、幅広く地域に対して活動内容や成果を周知する方法を考えていく	あり

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	身近な市内学校間での合同授業や体験活動、Web会議システムを活用した交流など「多様な学びの場の創造」や、地域の伝統文化等を継承・発展させるため、世代を超えた地域での交流を図るなどの「ふるさと教育の推進」を行い、創造工夫された体系的な教育活動の推進と、ふるさとを愛し次代を担う人材の育成に貢献した。
休止・廃止となったときの影響	学校や校区の特色ある活動を行うことができず、目的としている豊かな人間性や社会性を身に付ける機会を失うことが危惧される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	校区の特色を活かした授業の実施は、豊かな心を育成するために有効と考えられるので継続する。ただし、平成26年から事業を開始し、平成29年の見直しから5年を経過した中で、ICTの活用など多様化するニーズに対応できるよう、より有効な進め方を検討していく必要がある。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102020004	事務事業名	芸術文化活動振興事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	書道・音楽活動等文化活動による近畿大会以上に出場した児童・生徒及び団体に対し、補助金を交付する。		
対象	小中学校児童・生徒		
目的	児童・生徒の文化活動の振興と向上を図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画			
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.02	0.04	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			135,731	305,995	0	0
事業費計			0	60,000	0	0
フルコスト			135,731	365,995	0	0

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	市債		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
フルコストー特定財源			135,731	365,995	0	0
事業費計ー特定財源			0	60,000	0	0

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【量】補助金交付件数					
単位	件					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			1	1	1	1
単年度実績値			0			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	-	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1						
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			135,731	365,995	0	0
単年度実績値						

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	小・中学校において、児童・生徒の書道・音楽活動等、芸術活動を推進した。	なし
有効性	C: 有効性が低い	対象者の近畿大会以上の出場実績は無い。	あり
効率性	B: 比較的効率的である	適切な体制を整えているが、対象者は無し。	あり
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	適切な体制を整えているが、対象者は無し。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	事業の周知方法について、適正であるが対象者が無し。	あり

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	事業の周知の徹底及び体制について整備を万全に行っているが、対象者がいないため、事業の実施方法を検討し、継続していく。
休止・廃止となったときの影響	近畿大会以上の出場となると、旅費、宿泊代など多くの費用がかかるため、保護者の負担が増額する。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	令和3年度対象者がいなかったが、児童・生徒の文化活動の振興と向上を図るために、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102020005	事務事業名	人権教育事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	豊かな心を育成する
部名	教育委員会	課名	人権教育推進室
事業の開始	平成21年度	終了年度	なし
実施の概要	道徳教育・人権教育充実の取り組みを推進する。		
対象	すべての市民		
目的	人権教育の基本の場となる学校教育での人権の学びを充実させるとともに、人権を文化にまで高めるために生涯にわたって人権を学び続ける場を提供する。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画,人権施策協働推進ガイドライン		
根拠法令	法律・政令・省令 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律／人権教育・啓発の推進に関する基本計画		

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			1.15	1.35	0.0	0.0
会計年度任用職員数			3.1	2.1	0.0	0.0
人件費計			12,170,014	13,403,154	0	0
事業費計			2,233,583	2,609,000	0	0
フルコスト			14,403,597	16,012,154	0	0

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			60,000	125,000	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			14,343,597	15,887,154	0	0
事業費計ー特定財源			2,173,583	2,484,000	0	0

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】各種研究会参加者数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値				840	870	900
単年度実績値	1,070	773	810			
前年比	-	72.24%	104.78%	-	-	-
単年度達成率	-	-	-	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1						
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値				19,062.0881	0	0
単年度実績値	2,465.715	2,960.2678	17,782.2185			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	人権問題の解決に向けた教育内容を研究実践し、その成果を市内児童・生徒に向けた教育・啓発の場において発信していくことに役立てている。県教育委員会ならびに県教育委員会参画の団体の下部組織としての役割を果たしながら人権教育事業を実施している。	あり
有効性	B: 比較的有効である	各校においての人権研修や教育実践の充実、コロナ差別、いじめ、インターネットによる人権問題など子どもに関わる人権課題などの情報発信、校内の取組によって、人権意識の高揚と確かな学びがあり効果的であった。	あり
効率性	B: 比較的効率的である	地域に学ぶ体験学習支援事業において、参加者に受益者負担を求め、学校教育・社会教育としての人権教育は行政の責務となるため、負担を求めない。	あり
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	子どもが人権問題を解決する素地を培うため、教職員研修は有効かつ重要である。また、人権が尊重される社会が実現されるため、市職員研修も加えて重要であり、市民の人権意識の高揚につながっている。	あり
透明性	B: 比較的透明性を確保している	学校教育では、各校園における人権教育カリキュラムにもとづき継続した取組や研究実践、また、他校園との研究協議・情報交換が最適である。	あり

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通りの実施ができない事業もあったが、内容を変更したり代替の取り組みを実施することで、概ね予定通り進捗している。学校園の人権教育の推進に向け、情報発信、指導助言、研修の場の設定など教職員への支援を充実させる。人権教育を核にした道徳教育の系統的な推進に向け、研修を充実させる。
休止・廃止となったときの影響	教職員の人権意識が薄れ、小中学校の児童生徒への人権教育への影響が大きい。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	教職員に向けた人権教育の実践についての研修機会の充実や子どもの発達段階と取り巻く状況に対応した取組みの継続に努める。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102030001	事務事業名	学校給食運営事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	健やかな体を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	学校給食を食育の「生きた教材」として活用するため、学校給食における地産地消を推進し、その取り組みを家庭や地域に対し積極的に情報発信を行うとともに、生産者等の地域人材を活用するなど、家庭・地域・学校が連携しながら子どもたちの食育に取り組み、幼稚園から栄養バランスのとれた学校給食を無料で提供する。		
対象	幼稚園、小・中学校園児・児童・生徒および保護者		
目的	子どもたちに食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせるため、組織的・計画的に食育を推進し、学校給食において地場産物を積極的に活用し、栄養バランスのとれた給食を無料で提供する。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令	法律・政令・省令 学校給食法(昭和二十九年六月三日法律第百六十号)		

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			1.089	7.77	0.0	0.0
会計年度任用職員数			65.021	61.03	0.0	0.0
人件費計			98,954,301	148,828,781	0	0
事業費計			118,373,635	122,420,000	122,420,000	122,420,000
フルコスト			217,327,936	271,248,781	122,420,000	122,420,000

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			50,000,000	21,900,000	21,900,000	21,900,000
フルコストー特定財源			167,327,936	249,348,781	100,520,000	100,520,000
事業費計ー特定財源			68,373,635	100,520,000	100,520,000	100,520,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】学校給食における地場産品使用品目数					
単位	品					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			35			
単年度実績値			32			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	91.42%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	地場産品1品目あたりのフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			6,209,369.6			
単年度実績値			6,791,498			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	A: 妥当性が高い	栄養バランスの優れた給食を定期的にたべることで、子どもたちの心身の健康が保たれるため妥当性が高い	なし
有効性	B: 比較的有効である	給食費無償化を実施し保護者負担軽減を図っている。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	給食数の変更を各学校から都度報告があり、早急に対応し不要な食材が発生しないように経費削減に努めた。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	給食内容の充実のため地場産品を多く取り入れたメニューを取り入れ、栄養バランスのとれた給食の実施及び食育の推進を図っている。	あり
透明性	A: 透明性が高い	各学校への給食献立の配布や、近隣の店舗当にも献立の配下を行うなど積極的な情報公開を行った。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	多くの地場産物を給食に取り入れることにより、食育の推進を図り、献立でわかりやすく表示したり、「給食だより」で特集を組むことで、家庭や地域と連携しながら食育に取り組むことができた。コロナウイルス感染症の影響により、物資単価の高騰があるが、安定した給食を実施できるよう努力していく。
休止・廃止となったときの影響	子どもたちに栄養バランスのとれた安定した食事ができない事情が生じる恐れがあり、著しく健康を害する恐れがある。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	幼稚園から栄養バランスのとれた学校給食を無料で提供することで、学校給食を食育の「生きた教材」として活用することで、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせ、健やかな体を育成することができているため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102030002	事務事業名	クラブ活動運営事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	健やかな体を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	部活動を通して、体力の増進、協調性、想像力の高揚を図り、部活動指導員を配置し、顧問の負担軽減と指導の充実を図る。		
対象	中学校生徒・中学校教職員		
目的	部活動を通して、生徒の協調性、社会生活への適応性を養いながら健全育成を図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.14	0.23	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			950,117	1,759,471	0	0
事業費計			1,890,600	2,225,000	2,225,000	2,225,000
フルコスト			2,840,717	3,984,471	2,225,000	2,225,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			256,000	384,000	384,000	384,000
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			2,584,717	3,600,471	1,841,000	1,841,000
事業費計ー特定財源			1,634,600	1,841,000	1,841,000	1,841,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	部活動加入率					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			90			
単年度実績値			87.6			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	97.33%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1						
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			31,563.5222			
単年度実績値			32,428.2763			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	A: 妥当性が高い	部活動は、心身の成長が著しい生徒が、自らの興味関心を深く追求し、個性や能力の伸張や、学年や学級を超えて仲間と切磋琢磨しながら社会性を育むことを目的としている。 また、「相生市部活動ガイドライン」に基づき、各中学校が運営する部活動について、安全かつ持続的な運営を実現させるための人的支援(ボランティア)を感染症の影響により活動が制限された期間もあったが、生徒の協調性、社会生活への適応性を養いながら健全育成が図れ、競技経験が無い教職員が顧問を務める部活動などに指導員を配置することで、顧問の指導時間の短縮による負担軽減と、専門的指導による生徒の技能向上を図った。	なし
有効性	A: 有効性が高い	吹奏楽部活動に必要な経費については、捕手委託契約二冠する使用や、学期の更新・修繕等の計画を見直し、予算の削減、平準化を図った。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	部活動指導員を配置することで、より質の高い部活動指導が行われた。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	部活動について市民への情報提供を行う方法の検討が必要である。	なし
透明性	A: 透明性が高い		なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	部活動加入率について、少子化により部員数の減少が続く中で、適正かつ持続可能な運営体制について検討し、安定した部活動運営を実現するために、専門的な知識・技能を有する外部人材を継続的に確保する必要がある。
休止・廃止となったときの影響	部活動で専門的な指導ができる人員が不足する恐れがあり、吹奏楽部での楽器の調達ができないことが懸念される。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	部活動を通して、体力の増進、協調性、想像力の高揚を図り、部活動指導員を配置し、顧問の負担軽減と指導の充実を図る事ができているが、今後クラブ活動の地域移行に関する検討が必要である。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102030003	事務事業名	学校体育振興事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	健やかな体を育成する
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	校内マラソン大会やなわとび検定及び泳力検定や、運動部活動の体育大会への参加等により、児童生徒の健康及び体力づくりを推進する。		
対象	小中学校児童・生徒		
目的	学校における児童生徒の体力・運動能力向上の取り組みを図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.26	0.3	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.021	0.02	0.0	0.0
人件費計			1,794,076	2,324,256	0	0
事業費計			3,919,023	5,456,000	5,456,000	5,456,000
フルコスト			5,713,099	7,780,256	5,456,000	5,456,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			0	0	0	0
市債			0	0	0	0
その他			0	96,000	96,000	96,000
フルコストー特定財源			5,713,099	7,684,256	5,360,000	5,360,000
事業費計ー特定財源			3,919,023	5,360,000	5,360,000	5,360,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】全国体力・運動能力、運動習慣等調査における総合評価値(小学校)					
単位	%					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			73	73	73	73
単年度実績値			72.5			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	99.31%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1						
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			78,261.6301	106,578.8493	74,739.726	74,739.726
単年度実績値			78,801.3655			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	体力の向上を目指す目的として、部活動のしやすい体制を整えているため妥当性がある。	なし
有効性	B: 比較的有效である	コロナウイルス感染症の影響により活動が制限されたが、感染症拡大防止対策を講じながら健康及び体力づくりを推進した。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	大会参加用バス借上げ等のための見積もり合わせを行うなど、コストの抑制に努めた。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	中学校総合体育大会実施を中学校体育連盟に委託することで、日程等の県大会出場に対しスムーズに行うことができている。	なし
透明性	A: 透明性が高い	大会結果等を新聞、広報等により周知している。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	中学校総合体育大会の円滑な運営や、各種大会への参加への支援により、運動のしやすい環境づくりを行っており、子どもたちの体力向上を図れている。
休止・廃止となったときの影響	子供たちの運動への関心が薄れ、体力の低下や運動能力のアンバランス化が進む。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	学校における児童生徒の体力・運動能力向上のために、校内マラソン大会や泳力検定、運動部活動の体育大会への参加等の取り組みを行っており、継続した事業実施が必要である。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102040003	事務事業名	適応教室事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	不登校対策の施設として適応教室「コスモス教室」において、学校や関係機関などと連携しながら、個々の実態に即した学校生活への適応支援を行う。		
対象	小中学校の児童・生徒		
目的	児童生徒や保護者からの相談に専門的に対応できる相談窓口を設け、一人一人の特性や家庭環境を考慮し、学校への復帰、社会的自立に向けて、心や福祉の専門家や関係機関と連携を図りながら、適切な支援を行う。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.12	0.13	0.0	0.0
会計年度任用職員数			3.0	3.0	0.0	0.0
人件費計			5,039,040	5,388,515	0	0
事業費計			230,787	304,000	304,000	304,000
フルコスト			5,269,827	5,692,515	304,000	304,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	市債		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
フルコストー特定財源			5,269,827	5,692,515	304,000	304,000
事業費計ー特定財源			230,787	304,000	304,000	304,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】小中学校における全欠児童生徒数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	減少					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			0	0	0	0
単年度実績値	0		3			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率						

(2)コスト指標

指標名1	ふれあい体験教室活動1回に当たるフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値						
単年度実績値			1,756,609			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	A: 妥当性が高い	子どもの悩み相談に対して理解を示しながら、日々の学習やふれあい教室への参加により自己肯定感を高め学校復帰を図っており、保護者の求める支援体制の維持やふれあい教室参加等により、生徒の自立支援を行うことができている。	なし
有効性	B: 比較的有効である	親子教室を実施し、保護者の理解と協力を得ながら事業を行っている。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	個々に応じた日数・時間・学習課題・体験活動等を設定した受入を行いながら、学校復帰を図っている。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	個々に応じた学習内容や体験活動の検討を行い、実施している。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	対象者以外の児童・生徒に対して適応教室のさらなる情報提供が必要である。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	一人ひとりの特性や家庭環境を考慮し、学校への復帰、社会的な自立に向けて適切な支援を行うことが必要であり、子どもや保護者からの相談を受け、日々の学習やふれあい教室への参加により自己肯定感を高め学校復帰、社会的自立を図っている。
休止・廃止となったときの影響	本事業が休止・廃止となった場合、学校へ通うことのできない児童生徒に対して、学校への復帰、社会的な自立への支援ができなくなる。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	不登校対策の施設として適応教室「コスモス教室」が、個々の実態に即した学校生活への適応支援を行っており、学校への復帰や社会的自立に向けて本事業が必要であるため、継続して実施する。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102040004	事務事業名	相生っ子かがやき顕彰事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	権威ある大会等において成績が顕著な中学生以下の者に対して、相生っ子かがやき顕彰を贈呈する。		
対象	小中学校の児童・生徒		
目的	成績が顕著な個人・団体に対し、スポーツ・文化芸術顕彰を贈呈することにより、生徒児童のスポーツや文化芸術に親しむ心の向上を図る。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画			
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.042	0.062	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			285,035	474,292	0	0
事業費計			4,563	60,000	60,000	60,000
フルコスト			289,598	534,292	60,000	60,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	市債		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
フルコスト－特定財源			289,598	534,292	60,000	60,000
事業費計－特定財源			4,563	60,000	60,000	60,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】相生っ子かがやき顕彰受賞者数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	増加					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			1	1	1	1
単年度実績値			1			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	100%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	かがやき顕彰対象者1人あたりフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			289,598	534,292	60,000	60,000
単年度実績値			289,598			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	本市のスポーツ・文化芸術の推進を図る。	なし
有効性	B: 比較的有効である	スポーツ・文化芸術顕彰を贈呈することにより、本市のスポーツ・文化芸術の推進を図った	なし
効率性	B: 比較的効率的である	表彰対象となる成績の優秀な個人又は団体の把握に努める。	なし
改革・改善プラン達成度	C: 改革改善効果が低い	表彰対象者の把握のための体制づくりとして、学校や他課との連携の強化を図る必要がある。	あり
透明性	A: 透明性が高い	受賞者について、市ホームページや、広報等を活用し、より多くの人へ情報提供できるよう努めている。	なし

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	表彰対象者の把握のため、学校や他課との連携の方法を検討しながら、事業を継続していく。
休止・廃止となったときの影響	輝かしい功績を残した子供たちにたいして、表彰する機会を失い、スポーツ・文化芸術の推進ができない。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	権威ある大会等において成績が顕著な中学生以下の者に相生っ子がかがやき顕彰を贈呈することで、児童生徒のスポーツや文化芸術に親しむ心の向上を図っており、継続した事業実施が必要である。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102040005	事務事業名	教育研究所運営事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	教職員の資質と実践的指導力の向上のため、教職員の経験に応じた各種研修講座の一層の充実を図り、若手教職員を中心とした研究員制度により、教科等の効果的な指導方法などについて研究に取り組み、授業実践に活かせるように支援を行う。		
対象	学校教職員、幼稚園教諭		
目的	教職員の資質と実践的指導力の向上のため、体系的な研修を実施します。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.16	0.26	0.0	0.0
会計年度任用職員数			1.021	1.04	0.0	0.0
人件費計			2,523,638	3,512,232	0	0
事業費計			992,980	913,000	913,000	913,000
フルコスト			3,516,618	4,425,232	913,000	913,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	市債		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
フルコストー特定財源			3,516,618	4,425,232	913,000	913,000
事業費計ー特定財源			992,980	913,000	913,000	913,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】研修受講による教職員の満足度					
単位	%					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			100			
単年度実績値			100			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	100%	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	満足度のフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			35,166.18			
単年度実績値			35,166.18			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	教職員が多様なニーズに対応するためには、さまざまな研修を行うことで、教職員の資質向上を図ることが必要である。	なし
有効性	B: 比較的有效である	研究研修等により教職員の資質向上に有効である。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	研修内容の見直しや、講師派遣において兵庫県の講師派遣を利用するなど、コスト削減に努めた。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	研修における教職員の満足度は100%であり、日々の授業への活用もできている。	なし
透明性	B: 比較的透明性を確保している	教育研究所の実施した研修内容等をホームページ等で公表している。	なし

(2) 総合評価

総合評価
A

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	研修の受講内容や研究部会での内容を、日々の授業に活用することができている。コロナ禍での開催になるので、十分な対策をした上で、オンラインも活用し、今後も研修や研究部会を実施していく。
休止・廃止となったときの影響	研修や研究部会が廃止すると、新しい知識や指導方法などを学ぶ機会が減少し、指導力の向上が期待できない。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	教職員の資質と実践的指導力の向上のため、教職員の経験に応じた各種研修講座を実施し、授業実践に活かしており、学びを支える体制の充実を図っている。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102040006	事務事業名	相生市小中一貫教育推進事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	一貫性を持った教育推進に向けた、研究会の実施及び先進地等の視察を検討する。		
対象	幼稚園、小中学校の園児・児童・生徒		
目的	幼・小・中学校の12年間を通して継続的な教育を行い、子どもたちの能力を最大限に伸ばす。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画,小中一貫教育基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.18	0.2	0.0	0.0
会計年度任用職員数			0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計			1,221,580	1,529,975	0	0
事業費計			0	120,000	120,000	120,000
フルコスト			1,221,580	1,649,975	120,000	120,000

(2) 歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	市債		0	0	0	0
	その他		0	0	0	0
フルコスト-特定財源			1,221,580	1,649,975	120,000	120,000
事業費計-特定財源			0	120,000	120,000	120,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】幼小中一貫教育のための研修実施回数					
単位	回					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			2			
単年度実績値			0			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率	-	-	-	-	-	-

(2)コスト指標

指標名1	研修実施1回あたりフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			610,790			
単年度実績値						

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	継続的な教育を行い、子どもたちの能力を最大限に伸ばすためには、本事業が必要不可欠である。	なし
有効性	B: 比較的有効である	幼小中一貫のための研修はコロナ感染拡大防止の観点から中止となったが、幼から小へ、小から中へ上がる子どもへの支援として幼小中の職員間の会議を実施し、継続的な教育支援が行えるようにしている。	なし
効率性	B: 比較的効率的である	研修は中止となったが、計画時には研修講師を専門性の高い民間から呼ぶなどの工夫をしている。	なし
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	幼・小・中学校の12年間を通して継続的な教育を行い、子どもたちの能力を最大限に伸ばすため、職員間の会議を継続して実施している。	なし
透明性	C: 透明性が低い	幼小中一貫教育を推進しているという情報公開は行っているが、具体的にどのような推進を図っているかを保護者に周知する方法の検討が必要である。	あり

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	C: 改善・見直しの上で継続
所見	新型コロナウイルス感染症のため、視察は中止となったが、中学校区の連携は進める事ができた。教育課題に適切に対応し、充実した教育活動を展開するため、幼稚園から中学校まで12年間を見通した体系的な取り組みは必要であるため、改善方法を検討しながら、継続していく。
休止・廃止となったときの影響	幼・小・中での連携がとれず、各学年の課題に対して、適切な対応や充実した教育活動ができない恐れがある。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	令和3年度は新型コロナウイルス感染症のため、研究会等は中止となったが、幼小中が一貫性を持った教育を推進するためには本事業は必要である。

事務事業評価シート

年度

3

1. 基本情報

事業番号	010102040007	事務事業名	青少年健全育成活動事業
まちづくり目標	未来を担う人と文化を育むまち	施策	輝く子どもを育むまちづくり
基本施策	知・徳・体の調和のとれた人材の育成	取り組み事項	学びを支える体制の充実を図る
部名	教育委員会	課名	学校教育課
事業の開始		終了年度	なし
実施の概要	家庭・地域・学校の連携を一層深め、登下校時の見守り活動、学校支援活動等を継続的に実施するなど、地域社会が一体となって、青少年の健全育成に努める。		
対象	小中学校児童・生徒		
目的	青少年の問題行動の未然防止や不審者等からの子どもの見守りを行い、青少年の健全育成に努める。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	教育振興基本計画		
根拠法令			

2. 事業費

(1) 歳出

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
正規職員数			0.28	0.28	0.0	0.0
会計年度任用職員数			2.0	2.0	0.0	0.0
人件費計			4,716,671	5,071,319	0	0
事業費計			3,976,098	4,977,000	4,977,000	4,977,000
フルコスト			8,692,769	10,048,319	4,977,000	4,977,000

(2) 歳入

単位：人、円

	実績値				計画値	
	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算	令和5年度	令和6年度
特定財源						
国庫支出金			0	0	0	0
県支出金			356,000	356,000	356,000	356,000
市債			0	0	0	0
その他			0	0	0	0
フルコストー特定財源			8,336,769	9,692,319	4,621,000	4,621,000
事業費計ー特定財源			3,620,098	4,621,000	4,621,000	4,621,000

3. 評価指標

(1) 活動指標

指標名	【質】巡回補導件数(声かけ含む)／年					
単位	件					
指標数値のめざす方向	減少					
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			500			
単年度実績値			465			
前年比	-	-	-	-	-	-
単年度達成率						

(2)コスト指標

指標名1	補導件数1件あたりのフルコスト					
単位						
年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単年度計画値			17,385.538			
単年度実績値			18,694.1269			

4. 事後評価

(1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B: 比較的妥当である	青少年の問題行動の未然防止や不審者等からの子どもの見守りを行うことは妥当である。	なし
有効性	B: 比較的有效である	巡回補導回数は年々増加傾向にあるが、補導件数は減少傾向にあり有効である。	なし
効率性	C: 効率性が低い	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和3年度は青少年健全育成大会を中止とした。家庭・地域・学校の連携をより深めるための工夫が必要である。	あり
改革・改善プラン達成度	B: 比較的改革改善効果がある	補導委員により巡回補導回数をできる限り増やしていることや、委員の選定についてもできる限り幅広い地域や分野の委員を選任している。	なし
透明性	C: 透明性が低い	家庭・地域・学校の連携を一層深めるため、青少年健全育成大会を実施しているが、参加者以外の市民にも周知ができるよう検討が必要である。	あり

(2) 総合評価

総合評価
B

(3) 方向性評価(担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	コロナ禍でも補導活動を行い、補導委員についても幅広い地域や分野の委員を選任しており、青少年の健全育成に努めている。
休止・廃止となったときの影響	巡回補導活動がなくなり、犯罪から子供たちを守ることができなくなる。

(4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	B: 現状のまま継続
所見	青少年の問題行動の未然防止や不審者等からの子どもの見守りを行うことで、青少年の健全な育成を図っており、継続して実施する。